

Faculty Development Staff Report vol.

囯	本冊子の発行にあたって 1	ı
,_	授業インタビュー・・・・・・・・・・2	ı
汉	FDSが選ぶ、印象深い授業を紹介	
		ı
	今、学生が授業に求めていること。	i
	まとめ12	ı
	学生が望む授業にどう応えるか	
	編集後記 12	ı

Rits Teaching Style

学生にレスタッフが紹介する は学業主に業種

学生 FD スタッフぐは?

授業改善に興味・関心があり、大学教育開発・支援センターが進める FD 活動に参加する学生。2006 年度から募集・活動を始め、学内の 各種 FD 検討企画や他大学 FD 活動の見学にも参加しています。

冊子の発行にあたって

この冊子は、大学教育開発・支援センターが進める FD 活動に参加する学生スタッフ(学生 FD スタッフ)と協力して作った授業紹介集です。ここで紹介されている授業は、学生 FD スタッフが自分たちの受けた授業の中から選んだ印象に残った授業です。

本学は12学部(2008年度より)を擁する大規模な総合大学であり、1年間に10,000クラスを超える授業が開講されています。本冊子で紹介されている授業はその中のわずか8授業であり、他にも紹介したい授業実践はたくさんありますが、学生たちがどのような授業を望んでいるのかは、そこからもうかがい知ることができます。また、それぞれの先生方の授業に対する考え方や様々な授業工夫の中からは、きっと参考になるヒントが得られるのではないかと思います。本冊子をぜひご覧いただければ幸いです。

2008年3月 大学教育開発・支援センター

学生視点で理解のしやすさに主眼を置く 「メディア社会論」

授 業 内 容

Information

担当FDS 産業社会学部 3回生 木田一広

担 当 者 筒井淳也

講義名称メディア社会論

開講学部産業社会学部

受講年度 2006年度前期

∠UUO・干浸削期 ※これは、学生FDスタッフが受講した年度を示しており、本授業は2007年度も同じ担当者

によって開講されました

社会の時代ごとのメディアのかたちを一貫 した視点からしっかりとみつめるために、メディ アの社会理論を学びます。

印象に残った理由

講義内容を理解しやすく、学んだ理論を実生活にも応用できる点で非常に満足度の高い講義です。また、先生のキャラクターも魅力的だったことが好印象でした。

Q.授業において工 夫されている点が あれば教えてくだ さい。



パソコンに打ち込んだ板書

生に見せます。詳細はレジュメに載せるため、リアルタイムで 打ち込む「板書」では内容をシンプルにして伝えることを重視 しています。

Q。学生と先生の時間が共有されているイメージですね。僕の経験では先生だけの時間軸で講義を行なう方が多く、それ故学生がその講義についていけないことも少なくないと思います。

▲・そうですね。内容の面では、学生が理解しやすいよう努めています。最初から難しいことを説明すると、学生の中で咀嚼するのに時間がかかってしまう、あるいは理解できないままになってしまう。そうすると、結局学生の中に何も残りません。何も残らないよりは疑問として残ってくれれば、何かしら私のメッセージは伝わったと言えます。メッセージが学生の身近な例にまで落とし込まれ、学生が身近なことと理論を結びつけることが出来るよう努力したいですね。だから私は学生の記憶に残る内容の講義を目指しています。



研究室の様子

Q・場でいる。というでは、生きらいまりのとない。かれ説しれていまり。がれ説しれている。ないではいいないではいいではないではいいではない。ないではないではない。とないではないでは、授常いにれた聞ま、える

うちに気がつけば時間 だけが悪戯に過ぎてし まった苦い経験もあり ます…。

A。単にシンプルなことだけを教えても学生の記憶に残らないことのがあります。深いところで専門知識と結びついた洞察力のある見方を提示する必要があきかった。意外かもしれませんが、研究と教育の両立といいと



筒井先生へのアクセス tsutsui@ss.ritsumei.ac.jp

私は考えます。研究は時間を要するため、研究と教育は両立が 難しいとよく言われますが、私はこれを両立させたいと考えて います。

私が担当する「メディア社会論」では、社会の仕組みとメディアの仕組みをつなげて説明する必要があります。そのためには社会学や経済学の少々難解な理論を授業に取り込まなくてはならないのですが、これらを学生に分かりやすく面白く説明するためには、自分のものとして身につけて、完全に理解していることが必要です。本当に分かっていれば、難しいことも分かりやすく教えることが出来るはずなのです。分かりやすく教えるための大前提として、教員自身が授業内容を完全に理解し知識を自分のものとしていることが大切だ、と私は思います。

Q.今後の授業改善に関して何かあればお願いします。

A.FDを通じて授業のコツや経験を教員間で共有していく仕組みが必要ですね。コツをもっと共有し、授業経験の浅い先生たちにも開放してあげれば良いと思いますよ。

【感想】コツや経験の共有であれば、教員間の負担も少なく済みそうです。個人的には、それをデータベースとして保存し、教員がいつでも情報を検索、あるいは情報を加えていくことが出来るできる仕組みがあれば面白いと思います。

大学教育開発・支援センターからのコメント

授業では最初から難しいことに入らず、理解しやすいことから始め、できるだけ内容をシンプルに伝えることに努力されているとのこと、言うは易し行うは難しで、実際にはとても難しいことだと思います。 授業アンケートでもすべての項目で分野平均を上回っていますので、 先生の目指されている授業が実現していることを裏付けています。

シミュレーション体験を通して理解を深める 「国際公共入門」

国際機関が扱う様々な世界的課題に真摯に

取り組むために、政策的観点からどうすれば

いいのか。その政策決定のプロセス、あるべき

選択肢、決定方法のあり方について学習する

授業内容

Information

政策科学部 2回生 高畠朋美

担当者宮脇昇

講義名称 国際公共入門

開講学部政策科学部

(国際インスティテュート 国際公共プログラム)

受講年度 2006年度前期

授業です。 ※これは、学生FDスタッフが受講した年度を示しており、 本授業は2007年度も同じ担当者によって開講されました。

「印象に残った理由」

現在の世界情勢、政策決定の過程の難しさというのは講義 のみでは理解しにくいものです。しかしこの授業では学生が 授業に参加することで、自らの体験を通して講義を聴くだけ よりもその内容を詳しく理解することができるようになりま す。シミュレーションを授業に導入することにより、自分から 進んで理解を深めることができました。授業がとても工夫さ れているのがわかり、他の授業より知識も長く残っています。

Q。先生が学生参加型の授業をおこなうのはなぜですか?

A.①学生の想像力を高めたい

国際機関については説明されても実感がわかないはず。学生 に模擬的にバーチャルな世界を体験してもらうことで理解を促 したいと考えています。

②政策決定の方法を理解し、自分達で互いが50-50になる解 を見つけてもらいたい

シミュレーション内にも現実の政策にも、各国の目標があり ます。政策目標達成のためには互いの国が50-50(フィフティ -フィフティ)になるような解を見つける必要があります。限 られた環境条件の中で最適解を見つけるということを体験して ほしいという気持ちがあります。

Q.学生参加型授業のメリットは何ですか?

▲・教員側としては学生の理解の程度がその場でわかるというこ とですね。例えば、基礎知識など講義で教わるほどではないこ とを学生が知らない場合もその場で知り、フォローすることが できます。教員からすれば、シミュレーションの場がそのままフィー ドバックの場となるのです。

また、学生のイキイキとした顔を見られるのも教育者として はうれしいことですね。

学生側のメリットとしては、やはり日本から離れた視点から 世界を見る、または日本を外から見ることができることですね。 これにより複眼的思考を養うことができます。問題解決の最適 解を発見し、それを国際公共政策の政策決定にいかしてほしい ですね。大きく分けると政策には政策決定過程と政策実施過程 があります。私がシミュレーション内で教えるのは前者ですが、



諒友館地下食堂で行なったシミュレーション

決定過程の理解を通して 実施過程も理解しやすく なると考えます。理想が 実現できるかどうかは、 そのプロセスを見ればわ かりやすいということを 勉強してほしいなと思い ます。

Q. 今後、改善する必要 があると思っていること は何ですか?

へいかいがあるので、 準備に関しては長い時間 をかける価値があるもの



miyawaki@sps.ritsumei.ac.jp

だと思っています。しかし最も重要なのは、シミュレーション 内で使う目標や制約に歪みがあってはいけないということです。 このシミュレーションは現実の世界を縮小し、モデル化してお こないます。それにより国によって役割上活躍する国と活躍し ない国がでてくるのです。しかし、教育上すべての学生に均等 に活躍の場をあげたいとは思いますね。その点でこれから工夫 しなくてはいけません。



積極的に参加する学生の様子

学生に関しては準 備が大変だと思いま す。ルールはもちろ ん、自分の担当する 国の知識や他国のこ とも勉強しておかな くてはいけません。 しかしこれらはとて も重要なことなの で、ぜひ勉強して臨 んでほしいですね。

ト学教育開発・支援センターからのコメント

政策決定というテーマなのでシミュレーションという授業方法は とくに効果的だったのかと思います。学生参加型授業のメリットにつ いてはおっしゃられている通りですが、授業方法としてはディベート やグループ・ディスカッションなど、それぞれの授業内容によって適 した方法を選べばよいと思います。

授業アンケートでは「学部の目的・目標と関連しているか」という目 的適合性で分野平均よりかなり高い値を示していますから、先生の授 業工夫が実っていることがよくわかります。

歴史をわかりやすく楽しく考えさせてくれる 「史学概論 I

Information

担当FDS 文学部 4回生 川口孝太郎

担当者 山崎有恒

講義名称史学概論I

開講学部 文学部

受講年度 2004年度前期

※これは、学生FDスタッフが受講した年度を示しており、本授 業は2007年度も同じ担当者 によって開講されました。

授業内容

歴史学とは何か、今起こっている時事問題 と関連させて、難しい言葉を使わず出来るだ けかみ砕いた表現で講義を展開します。

印象に残った理由

高校までの単調な歴史の授業ではなく、講義にリズムがあります。色々な意味で、高校までの授業と大学での講義は違うと感じました。



山崎先生へのアクセス yyt03266@lt.ritsumei.ac.jp

Q.オンラインシラバス と講義の関係性につい て、どう考えていらっ しゃいますか?

人が歴史を大切にしてほしい面もあり、歴史を知ることにより何か学ぶ点もあるので、少しでも歴史に興味を持ってもらえるように授業を展開しようと努めました。歴史をおもしろく感じてもらわないと受講してもらえないと考えて、1回ごとの授業の内容も丁寧に書いています。こっちも準備するからには、少しでも多くの人に聞いてもらいたいですからね。でも、オンラインシラバス通りに授業はなかなか進みませんが。

Q.では、実際授業はどう展開しているのですか?

▲・授業の中身は2時間程で出来ますが、そこからが問題。いきなり難しい中身から話してもつまらないから、取り上げる内容が現在に起きている問題とどう関わっているのか、今の問題からネタ振りで入っていきます。導入部分や最終的に何に結び付けてオチをつけるかを考えていると、4時間ぐらいは経過します。しかし、その部分をおろそかにしてしまうと、自分が伝えたい

部くや本部か割そ事あ少え講分れてでにに沢ていしせずい内皆いうにてつしてずい内になるな時ま点時内組のが来どてたげ間すを勢容みでシスがある。大にを替、ラ



質疑応答の一風景

バス通りに展開しなるがあり、ケートスにがいるがら、大いではいる話が、からいではいる話が、はいるではいるではいるではいます。



インタビュー時の先生の研究室

Q.授業アンケート結果を見ると、自習時間が少ない人がたくさんいますが、どう思われますか?

▲・それは少々ショックです。私なりに授業をわかりやすくする結果、授業だけで講義している内容がわかったつもりになっている人が多いかもしれませんね。予習は必要ないと考えますが、授業の内容を受けて、違うことに関心を持ち、調べてみようとか読んでみようと思ってくれるのは大歓迎なのですけど。来年以降変えてみます。この内容に関心を持ったなら、こういうものも読んでみてという次に広がりのあるような形で終われるように改善しますよ、FDですね。

Q.コミュニケーションペーパーは、どう使われていますか?

A。あれは本音を書いてもらうまでが、時間がかかるんですよね。 最近の学生は質問をしなくなりました。授業に学生の意見を取り入れようとしていますが、最初は皆、先生に対してのほめ言葉しか並べません。しかし、数少ない反対意見を取り上げて私の意見を話します。そうすると、段々慣れてきて正直に意見を書いてくれるようになります。やっぱり、みんな色々なことを考えています。本音のキャッチボールは楽しいもので、約500枚のコミュニケーションペーパーを読むのに2時間程かかりますが、あっという間です。

大学教育開発・支援センターからのコメント

先生の言われる通り、いかにシラバスを丁寧に書いても、実際の授業では受講生の反応に合わせてさらに工夫を重ねることが必要になります。しかし、シラバスと異なる授業展開になる場合は、事前に学生の了承を得ることが大切です。500枚のコミュニケーションペーパーを読まれているだけでなく、学生の本音を聞くのは楽しいとの感想には頭が下がります。

授業アンケートでも、理解度・成長役立ち度・意見反映度・出席状況 とも分野平均をかなり上回っていますから、川口君のいう授業のキャッチコピーは頷けます。

学生をやる気にさせる「宿題オーディション」!? 「フィランソロピィ論」

Information

法学部 4回生 上島有美子

担当者松田弘

講義名称 フィランソロピィ論

開講学部産業社会学部

受講年度 2006年度後期

※これは、学生FDスタッフが受講した年度を示しており、本授 業は2007年度も同じ担当者 によって開講されました

授 業 内 容

企業の社会的責任として「CSR(CorporateSocial Responsibility)論」が語られる今、直近の企業 等の実例を駆使して学生と意見を交換し、実学 的に学生のフィランソロピィについての知識、 知恵を養う授業です。

印象に残った理由

大規模講義での「学生主体の授業スタイル」 がとても印象的だったので、今回取材させて いただきました。特に、「宿題オーディション の実施」「学生に問い掛ける話し方」「リアルな 資料」「手厚い学生への質問回答」「出席カード の工夫で代返予防」等がとても印象に残って

Q.なぜ立命館大学の教壇に?

▲・産業社会学部の人間福祉学科の開設と共に、実学的にフィラ ンソロピィを学生に教えられる先生が必要だという話が教授会 で上がったそうです。私は「淡海フィランスロピーネット」の 初代運営委員長を勤め、今は顧問をしていることから、恩師に このようなお話をいただき、現在に至ります。

Q.授業の特徴を教えてください。

▲・参考書や論文等の文献での学習ではなく、最新の時事話題や 課題を重視します。学生の表情や反応を見ながら「お口直し」 と称してメディアの「旬な話」をいたるところに盛り込みますね。

Q。宿題オーディションも先生の授業の特徴ですよね。

A. そうですね。課題を学生自らに探索 してもらい、宿題という形でレポートを 提出してもらいます。宿題を提出しても らった中で、優秀作品にはオーディショ ンと称して学生本人に講義中に発表して もらいますし、もう少し努力が必要だと 感じた作品については個人名を伏せて課 題に対するコメントをします。



毎回形式の異なる コミュニケーションペーパ

Q.今の授業スタイルに至るまでに苦労したことや工夫したこと はなんですか?

▲.立命館大学には大学教員経験のない社会人講師に対してガイ ダンスもマニュアルもないので、授業の進め方、シラバスの書 き方、すべてが手探りから始まりました。学外には大学教員向 けの授業方法の参考書や芸能人の非常勤教員奮戦記録本という ものが多くあるので、そういったものを読破しましたね。最も 参考にしたのは名古屋大学の「ティーチングティップス」です。

Q. 先生の授業をお聴きしていると、「私はこの事実に対してこ のように思いますが、みなさんはどう思われるでしょうか」と



学生の疑問に手厚く回答

よく学生に語りかけてい らっしゃいますよね。あ れは学生の思考力を鍛え るのにとても良いと思う のですが、あのような話 し方はどうやって身につ けられたのでしょうか?

▲.それまで、講演を行な う経験はあっても学生を 前に講義をするというこ

とはありませんでした。 最初の頃は、講義を録音 して、帰りのバスの中で 毎回自己反省していまし たね。

Q.ちなみに最近はどん なことをされています

A.話術に巧みな方の講 演(口演)を聴いて勉強 しています。つい先日も 桂文珍さんの口演会に 行ってきました。さすが はプロ。自分はまだまだ



大学教育開発・支援センターまでご連絡ください

だなと感じました。まぁ、それらが今の、講義の前半と後半で 内容のトーンを変えるだとか、旬な話を入れるだとか、そういっ た授業スタイルに繋がっているのだと思います。



旬な話題で学生に興味を持たせる授業風景

大学教育開発・支援センターからのコメント

実学的な授業は先生のように実績のある社会人の方に学外から非 常勤でお願いすることが多いのですが、これほど学生をいかにやる気 にさせるかに努力されていることに驚きました。授業法については専 任教員といえども習熟しているわけではありません。今後はお互いの 授業からヒントをもらいながら少しでも良い授業ができるようにな りたいと思います。

この授業は授業アンケートでも基本設問のすべてで分野平均を上回っ ていますが、とくに学習時間が平均より長いのは「宿題オーディション」 というユニークな工夫の賜物と思われます。

自分なりの『都市景観観』の確立を目指す 「都市景観論」

Information

型当FDS 政策科学部 2回生 平野優貴

担当者 石原一彦

講義名称 都市景観論

開講学部政策科学部

受講年度 2007年度後期

授業内容

主観により評価が大きく分かれる景観の概念、景観に関わる制度や計画の歴史、景観に関わる法・制度、景観分析手法、景観デザイン手法等について、実例に基づきながら解説します。

都市景観に関する基本的事項や概念を理解 するとともに、自分なりの都市景観観を持つ ことを到達目標としています。

印象に残った理由

パワーポイントを利用して、日本や世界各地の景観の写真を掲示しながら進められる点が非常に印象的でした。画像としてみることで、より具体的な分析や手法の理解への挑戦が可能となり大講義ながら能動的に取り組める講義でした。

Q.授業で工夫されているのはどういった点ですか?

A.大きく分けて3つの工夫をしています。

- ①都市景観についての問題意識を持つことの意味を教えたいと思っています。そのためには言葉で話していてもうまく伝わらないのでなるべく多くの写真を見せる、さらにその背景にある考え方を提示することが大事です。
- ② 今回ディベート(講義中に学生の中から希望者を募る)を行ないました。受講生の参加を促すことと、都市景観論に対する価値観が必ずしも同じではないということを伝えるのが目的でした。まだ過渡期である都市景観論をどう考えるかということ自体を教えたいのです。そのためには考え方、対立関係、バリエーションを明示することが大事だろうと考え、ディベートという方法をとりました。
- ③ 衣笠キャンパスのデザイン・景観について考えてみなさいという課題から始めた授業がありました。これはみんな景観に対しては受身で捉えているけれど、実際には自分達でもコントロールできるのだということを伝えたかったのです。考えた上で手法を聞く方が効率的だとも思い、考える機会を与えました。

Q.他にも工夫があれば教えてください。

▲・一般的にも行なわれていることですが、コミュニケーションペーパーで毎回の理解度・興味、感想など反応を見ます。また

シカゴのマリーナシティ

及問はいる。 を発生のいる。 を発生のいるには、 を向いいのでは、 を向いいのでは、 をのいいのでは、 をのでいいには、 でいいのでは、 でいいでは、 でいいでは、 でいいでは、 でいいでは、 でいいでは、 でいいです。 といです。

Q. 写真の提示は授業内ではわかりやすいのですが、授業外学習は難しいように感じられます。どのようにすれば良いですか?



石原先生へのアクセス ishihara@sps.ritsumei.ac.jp

Q。都市景観という主

観によるところが大きい分野を扱うための配慮は何かされていますか?

▲・ひとつの価値観やひとつの手法・表現の仕方に固執しないようにしています。多様な価値観や景観があるということも言っています。自分なりの「都市景観観」を持ち、主観を磨いて欲しいのです。そのためにいろんな論点や事例を見せています。



岐阜県高山市の街並み

大学教育開発・支援センターからのコメント

授業方法や教材は授業内容や目的に応じて当然異なりますが、この 授業では写真やディベート、課題といった多様な取り組みを通して、 学生に主体的に考える力をつけさせたいとの先生の思いがよく伝わっ てきます。

それは授業アンケートで理解度や成長役立ち度が分野平均を上回っていることからもうかがえますし、コミュニケーションを重視しておられることも学生の意見反映度が高いことで裏付けられています。

近隣住民の幸せのために学問と体力を使う 「近江·草津論」

Information

経営学部 3回生

乃村紘平

担 当 者 藤岡 惇・仲野優子 授業内容

講義名称 特殊講義 近江·草津論

開講学部経済学部·経営学部·理工学部

受講年度 2006年度後期

※これは、学生FDスタッフが受講した年度を示しており、本授業は2007年度も同じ担当者 によって開講されました。

近江・草津地域とはどのような特徴のある地域で あり、どのような課題に直面しているかを、経済人、 行政関係者、市民組織の代表から概説するとともに、 実地体験学習の場におけるボランティア活動への参 画を通して発見・体得します。その上で、かかる課題 をどう解決したらよいのか、学生と住民、BKCと地 域・企業とが共存共栄する関係を築くためにはどう したらよいかを探求し、滋賀県民・草津市民の心に刺 さるような「提言レポート」を完成させます。

印象に残った理由

何より、受動的な授業ではなく、能動的な受講態 度が望まれる授業であったこと。200人ほどの講 義でありながら、小集団クラスのような雰囲気を 感じられたのは、Webコースツールを用いた、密 な連絡体制、複数のレポートを書かせることにより、 到達理解度を常に確認することができたこと。あ とは教員の先生方の熱意。全て印象に残るものば かりでした。

Q.これまでに試みた授業の工夫とその成果について教えてくだ さい。

A.この授業では、学問の成果を近江草津の地域の幸せづくりの ために使ってもらうことに留意しています。

近江・草津地域の各種の市民団体・行政・企業に、何か企画を おこしてもらい、ボランティア学生を募ります。受講生にはど れかの企画(あるいは自力で見つけてきてもよい)に参加して もらい、そこで体得した問題をテーマにして、解決策を提案す る最終レポートを書いてもらいます。共同担当者の仲野先生は、 草津地域の市民団体の元締めのような方であり、30種類ほどの ボランティア学生募集の企画をコーディネイトされます。4.5 回目の授業には、うち15団体の代表に来ていただき、ボランティ アを募集する熱い思いと企画の魅力について語ってもらいます。 意外に人気があるのは、近隣の桜ヶ丘団地の清掃ボランティア や子育てボランティア、地域の秋祭りへの出演協力などですね。

Q.僕としては、Webコースツールの活用が印象に残っています。 ▲。はい、この授業ではWebコースツールを頻繁に用います。5 回あるレポートはすべて、Webコースツール上にアップしても らい、受講生同士でフィールドワークの相談などをしてもらい ます。第2回目のレポートは、昨年度のレポートを読んで到達 点を継承するものであり、「伝承レポート」と称しています。

Q.本年度新たに行なった授業改善について教えてください。 A.レポートを増やしました。今年から「そもそもレポート」を 導入し、自分自身はコミュニティの中でどのような位置づけで あるのかを、まず理論的に認識してもらいます。これにより、"探 検⇒発見⇒ほっとけん"というプロセスを具現化し、問題意識を 持ってもらうのです。優秀なフィールドワークレポートや最終

THE RESIDENCE THE PROPERTY OF ACAMER (185 cm SAME TO THE PROPERTY OF THE PR -- PR. SEC. 1991 Mary or Recognitive, the particular production of the

授業で活用しているWebコースツール

レポートはボランティ ア先に還元するととも に、来年度の受講生に 書いてもらう「伝承レ ポート」の対象になり ます。

また、毎回、多彩な ゲストスピーカーを招 聘することにより、学 生自身の人的ネットワー クを広げてもらうこと も意識しています。

Q.レポート5本は多 くないでしょうか?



fujioka@ec.ritsumei.ac.jp

A.「そもそもレポート」、「伝承レポート」、「問題探索レポー ト」、「フィールドワークレポート」、「最終レポート」とい う順序になっており、やはり5本は必要です。これらのレポー トは、最後に合冊して提出してもらいます。

・担当教員は2名ですが、仲野先生の役割を教えてください。 A.仲野先生には、主にボランティア派遣プログラムの調整役、



あるいは受 講生を近江・ 草津の各種 団体や各種 の問題につ なぐ役をし てもらって います。

大学教育開発・支援センターからのコメント

Webコースツールをコミュニケーションと授業外学習に活用する ことで200人規模の授業でも学生を能動的にされていること、5本の レポートで日常的学習を促しながら目標達成に導いておられること など、大変丁寧な学習指導の様子がうかがえます。

授業アンケートでもすべての設問で分野平均を上回っていますし、 とくに学習時間が平均よりかなり良い方ですから、先生の努力が結果 にも現れています。

学生の意見を生かす「英文経済・経営記事」

Information

担当FDS 経済学部 2回生 新庄由佳

担 当 者 金森絵里

講義名称英文経済·経営記事

開講学部経済学部·経営学部

受講年度 2007年度前期

授業内容

この授業は、国際経済と国際経営の英文記事を読む授業です。経済、経営関係の新聞、雑誌・ニュースなどの記事を用いて、できる限り最新の経営、経済事情について英語で学びます。日本だけでなく、各国のさまざまな関連性に注目し、英文を読むための読解スキルや語彙力をつけます。また、教員が提示するその日のトピックに関するテーマについて小グルーブでとにディスカッションをし、グルーブ毎の意見をまとめて発表してもらいます。

印象に残った理由

経済学部と経営学部の合同で開講された 授業で、学生同士が意見交換できたことと、 最新の英文記事をいち早く読むことで世界 と日本の経済関係を勉強できたことからこ の授業を選びました。また、出席率もよく、学 生と先生のコミュニケーションがしっかり とれていました。



金森先生へのアクセス **kanamori@ba.ritsumei.ac.jp**

Q•授業を担当するに あたって一番大切にし ていることは何ですか?

A.大規模講義ではなかなかできないですが、小規模の授業では学生一人ひとりとのコミュニケーションを大切にしています。

Q.これまでに試みた 授業の工夫と、その成 果を教えてください。

▲。学生全体が授業に 参加できるようにグルー

プワークを設けたり、おもしろみを持たせるために<mark>クイズ形式</mark>にしたりしました。学生からの反応もよく、みんな積極的に参加してくれたと思います。

Q.現在、担当している授業で改善したいと考えている点はありますか?

▲・だいたい思いついたり要望があったことはすぐに実行しています。そのため小規模の授業では学生とのコミュニケーションはとれていると思います。しかし、今担当している講義は受講生が約750人なので、学生が授業を受けにくそうにしています。 大人数だとなかなか一人ひとりとコミュニケーションがとれないので、満足してもらえるようにできるだけコミュニケーションペーパーを使うようにしています。

Q.受講生の学生意欲を喚起するために工夫している点は何ですか?△。学生から要望があったことはできるだけすぐに取り入れています。また、言葉を選びわかりやすい解説にも心がけています。

Q.教材選択で重要視している点を教えてください。

▲•教材はわかりやすいものを選んでいます。新聞や雑誌などを 用いて偏らないようにいろいろなジャンルから選び、できる限 り最新のものを使っています。

Q.学生対応で気をつけていることは何ですか?

▲.みんなのニーズを取り入れたいと思っているので、要望はすぐに実行しています。

Q.成績の評価で工夫していることは何ですか?

▲・大規模講義では出席とレポートで評価しています。小規模の 授業では出席を重視しています。レポートや課題を返却する場 合は、コメントをつけて返すようにしています。

Q.一般的に学生が授業改善を望むことについてどう思いますか? **A.** とてもいいことだと思います。それだけ授業に積極的だということです。教員側としても、学生がどのような授業を望んでいるか知ることができますしね。

Q.学生FDスタッフのこのような活動についても、ぜひ感想を聞かせてください。

A.学生FDスタッフのような活動は、学生だけではなく教員が 授業を行なう上でもとても役立つのではないかと思います。学 生がどのような授業をおもしろいと思っているのか、またその 授業にはどのような工夫がされているのか、私もぜひ知りたいですね。



一部の教材

大学教育開発・支援センターからのコメント

授業の改善について学生とのコミュニケーションを重視し、要望があればすぐに取り入れるということはそんなに簡単なことではありませんから、すごいことだと思います。この授業は外国語ですから少人数ですが、他にお持ちの750人もの大講義でもコミュニケーションをとるよう努力されているとのこと、すばらしいと思います。

授業アンケートでもその効果は見事に現れており、学習時間では分野平均より0.9も高い値を示しています。

聞いて・考えて・納得の「デジタル信号処理」

Information

担当FDS 情報理工学部 4回生 面田知明

担 当 者 西浦敬信

講義名称デジタル信号処理

開 講 学 部 情報理工学部 (メディア情報学科、知能情報学科)

受講年度 2005年度前期

※これは、学生FDスタッフが受講した年度を示しており、 本授業は2007年度も同じ担当者によって開講されました。

授業内容

信号波形をコンピュータを使ってデジタル 処理するための基本的な概念、理論、アルゴリ ズムを理解します。

印象に残った理由

大学の授業は学生にとって、先生の話を聞く時間が多くなり、自分なりに考える時間が少なく、受動的なものになりがちです。その中でこの授業は、「授業→演習→解説」このサイクルが4~5ターン行なわれることによって、自分なりに考える時間を与えてもらえます。自分の考えを先生やTAに相談することもできます。このようなスタイルで授業が行なわれることで、学生の集中力が途切れにくいといったメリットもあると思います。



西浦先生へのアクセス <u>nishiura@is.ritsumei.ac.jp</u>

Q. まず初めに理想と する授業はどのような ものですか?

A.専門科目の場合、やはり大学なので専門知識を習得し、研究や社会に役立たせることが重要だと考えています。後から学んだことをイメージできるように、例えば数学と信号がどう関わっているかなど、基礎と専門を繋ぐ知識を埋められる授業を考えています。

Q.これまでの授業の工夫を教えてください。

▲・15~20分(学生の集中力持続時間程度)に1回演習を入れることです。YES,NO問題ではなく、計算や文章を書くなど、 頭に残りやすい課題を与え、考えることを意識した授業を行なっています。

また、その解答を演習の直後に行ないます。それは誤った知識のまま帰らないようにすることで、正しい知識のもとで復習してもらいたいからです。

演習では、友達との相談や、私やTAへの質問も認めています。 授業時間内に1つの題材をもとにコミュニケーションを取ることは非常に大事であり、授業内容を十分に理解できていない学生には隣りの学生が教えることができ、聞く側も教わり方を学ぶことがきます。

Q.講義資料はわかりやすく、学生からの評判が良いですが、作成にあたってどのような工夫をされていますか?

▲・授業や演習での質問などを通して、学生の理解度を知ることができます。学生が理解しづらい部分は次回の授業で補足し、次年度はその部分に対して重点的にわかりやすい資料を作るようにしています。さらに授業アンケートとは別に学生に授業に対する意見を書いてもらい、意見を反映できるようにしています。よって講義資料は年々良いものに進化していると思っています。資料作りをしっかりとやればやるほど授業が円滑に進むので、授業準備に十分に時間を取りわかりやすい資料作りを常に心がけていますね。

Q.今後、改善したいと考えていることはありますか?

▲・大規模講義にこのような演習のやり方が適しているとは限りません。私とTAだけでは全受講生に対して目が届かないからです。演習を行なうと私の話がとぎれ、授業内容を十分に理解できていない学生にとっては私語の時間になりがちです。今後は大規模講義に適した演習方法や解答方法、もしくはいかに私語を減らしつつ、効率よく演習を実施するのか最善策を模索し検討したいと思います。

Q.対策はありますか?

▲・TAの増員などがありますが、根本的な解決策ではないと思います。学生のモチベーションを上げることが解決に繋がると考えています。そのためには、メディア情報学科に入学してきた動機とデジタル信号処理の位置づけを明確にする必要があると考えています。デジタル信号処理が、知能情報学科やメディア情報学科の学生にどう関係するのか、音声や画像処理にどう関わってくるか、さらに社会に入ってどう役立つのかが理解できる授業を心がけたいと思います。

Q.今後の抱負を聞かせてください。

▲・現余くにも積でデ外るき授学のでがいるでといるできず堀よる業生ののがいまれば、精うみくル埋な思や気をはなり、精うみくル埋な思や気をが、のとえ杯し裕ば号らがす方ちでとが、のれで。やな



講義・演習・復習用レジュメ

ど、私自身も毎年学んでいき、年々良い授業の形に進化させていきたいと考えています。

大学教育開発・支援センターからのコメント

講義の途中に演習を挟むことで、コミュニケーションの効果も上手く生かしながら学習効果を高めようとしておられることがよくわかります。90分の授業をずっと集中して受けることのできる学生は少ないですから、途中で授業に何らかの変化を加える工夫が必要です。大規模講義に適した方法の開発にも期待しております。

授業アンケートでもほとんどの項目で分野平均より良い結果が出ていますから、先生の工夫は実を結んでいると思います。

今、学生が授業に求めていること。

学生はどのような授業に興味を引かれるのでしょうか?

ここでは、学生FDスタッフと大学教育開発・支援センター教員との座談会を通して、 学生の授業に関する率直な意見を紹介します。

どうやら、学生は「おもしろい」と感じる授業では、主体的に学ぼうとするようです。



高畠さん 私たちが「おもしろい」 という意味には、形式と内容の2種 類あると思うんです。

つまり、授業のやり方がおもしろいというのと、授業内容自体が興味深いというのと。

学生はたくさんの授業を履修しますから、すべての授業内容について 興味を持つということは難しいです。 その場合、やはり学習意欲を高めて くれる授業のやり方が重要になって くるのだと思います。

平野さん うん、特に立命館大学に は多くの学生がいるし、同じ学部や ゼミ内でもそれぞれの興味や関心は バラバラだと僕も感じるな。

授業を選んだ理由

木野先生 今回の冊子を作成するにあたり、各人が取材した授業を選んだ理由を教えてください。

上島さん 授業を受けて、学生の疑問・質問に対する先生の手厚いフォローや学生の学習意欲を掻き立てる宿題オーディションがとても印象的だったのでこの授業を取材しました。

面田さん 僕の選んだ授業では、90分の授業中に3回の演習があり、 授業内容が理解できたかの確認をします。自分でも当日の理解度が その都度確認できるので安心できます。

高**島さん** 私の選んだ授業は200名くらいの規模なのですが、シミュレーションという体験型学習をします。学生の参加型授業であるところが気に入っています。

平野さん 僕の場合、先生が授業内で写真を多用していて、ビジュアル面で訴えかけてくるんです。そこが他の授業と違って印象的でした。

川口さん 授業で先生が難しい話をするだけではなく、ところどころで学生に身近な分かりやすい例を挙げてくれたり、世間話を織り交ぜてくれる。そこが、馴染みやすくて授業に親近感が生まれました。

木田さん 僕の選んだ授業では、先生が話す内容についてリアルタイムでパソコンにキーワードを打ち込み、学生の集中力を維持しています。

おもしろい授業とは

木野先生 皆さんそれぞれの視点で「おもしろい授業」を選んだようですね。

さて、この学生がよく使う、授業での「おもしろい」という表現は、 どういった意味で使っていますか?単なる「笑える面白さ」という 意味じゃないですよね。

面田さん 納得できる授業という意味かな。

木野先生 なるほど。授業内容にもともと関心を持って受講しているのはごく一部で、その他の学生にいかに関心を持たせるか、それが教員の力量ということですね。

川口さん 僕の場合、「あの授業おもしろい」と言う時は、「あの授業は知的好奇心がくすぐられる」という意味で使っています。あとは、他の授業にはない特長があるときですね。

本田さん 授業の中で考えさせられる授業は、「おもしろいな」と 思います。先生が一方的に演説のような講義をする授業では、どう しても受身になってやる気が出ません。先生が学生と向き合って学 生の様子を確認しながら授業をする、そういった双方向なコミュニケー ションがあると、授業中に自分が主体的に考えながら授業を受けて いると感じることができるんです。

木野先生 皆さんの話を聞いていると、どうもこのコミュニケーションが授業には重要だと感じます。教員は授業の中で、自身と学生のコミュニケーション、学生同士のコミュニケーションを意識する必要があるようですね。

川口さん でも一方で、授業を受けるには学生の努力も必要だと思います。自ら学ぼうとしないで、「あの授業は難しくて分からないから面白くない」という学生もいます。そう考えると、一方的に先生が授業を行なうことも、時には必要じゃないかな?

面田さん 分かりやすい授業であれば、一方的な授業でも学生は納得するよね。でも、分かりにくい授業で一方的なのは耐えられないな。 大学の先生は、高校までの先生と違って教育方法を教わったことがないから、教育方法を学ぶ機会が必要だと思う。そうすれば、川口君が言ったみたいに、効果的な授業方法の使い分けもできるだろうね。

上島さん 私がおもしろいと思う授業は2パターンあります。1つは木田君と似ていますが、自分が主体的に学べたと感じられたとき、もう1つは自分の学んだことが卓上のものではなくて社会と密接な関係のある、リアルなものなんだと感じられたときです。初めてそう感じたとき、普段のニュースや新聞などの見方が変わりました。大学で学んでいることは意味があり、講義がおもしろいなと感じた瞬間でした。





学習時間について

木野先生 学生が「おもしろい」と感じる授業の中身や、その授業

では、次の質問をさせてください。今度は学生である皆さんにつ

授業アンケート結果を見ると、学生の授業外の学習時間について「15 分未満」が過半数を占めています。これは極端に少ないと言わざる を得ませんが、どうしてでしょうか?

木田さん まず、自学自習をしていなくてもついていける授業が多 いように感じます。

平野さん 僕たちは多くの授業を 60分以上 4% 履修する必要があります。すべて の授業についてしっかりと勉強す るなんて無理です。でも、本当に 興味を持ったことについては、単 位と関係なく勉強しますよ。

高畠さん 授業アンケートに答え るとき、学生は「勉強」というの を狭く捉えているんじゃないでしょ うか?私の場合も、自分が興味を持っ たことについては、読書や勉強を しますが、それが「授業のため」

90分以上 無回答 4% 30分以上 12% 15分未満 62%

2007年度前期の学習時間 (全授業)

う高校時代で終わっているというか。

木野先生 高校生時の学びの習慣が大学に入ると同時に無くなる。 これは大学としても考えないといけない点です。

もちろん、学生が自身の興味・関心を持ったことについて勉強す とも分かります。しかし、それにしても授業に対する自学自習が少な過ぎるでしょう。では、どういう授業であれば、勉強する気にな

木田さんが分かりやすい授業を受けると勉強する気になりますね。

木野先生 おや、難しい授業ではなくてですか?

木田さんはい。分かりやすい授業だからこそ、自分の理解できて いない点も見えてくるのです。難しい授業は、そもそもやる気にな らないです。

面田さん 将来につながる授業は、勉強する気になります。何のた めに履修しているのか分からない授業は、勉強したところで何にな るの?って思います

あと、試験が学生自ら考えて答えるような問題じゃありません。 授業の丸覚えというか。学生の本来の学びを確認するような試験に なるよう、もっと工夫してほしいです。

川口さん この4年間で感じることは、発表する機会が少ないとい うことです。学んだことをアウトプットする機会があれば、自分で 主体的に勉強し考える力が身に付くと思います。

上島さん 私も授業外学習と言われると試験前の暗記学習をイメー ジしてしまうので、いつも「15分未満」に印をつけます。ただ。 関心を持った講義は趣味のような感覚で本を読んだりします。学習 するにはシンプルな探求心が必要だと感じますが、それを身に付け るには、やっぱりレポートやプレゼン等の課題が重要な役割を持っ ているのかなと思います。そういう意味では、高校生時の学びの習 慣は必要だなと思いますね。

木野先生 確かに、私の授業でも、プレゼンなどをさせたら学生の 学習意欲がぐっと増します。

さらに、学生に発表や課題の提出を求める場合にも、単に実施す るだけでなく、コメントや改善点をフィードバックすることにより、 学生のさらなる学習へとつながっていきますね。

平野さん 先ほど面田君も言ったように、授業で得たものを将来に 活かすビジョンを示してほしいです。シラバスには到達目標などが 書かれていますが、それではまだ不十分だと感じています。

高畠さん 確かに、私もオリター経験を通して感じるのですが、多 くの1回生が授業の途中でドロップアウトしてしまいます。理由を 聞くと、多くの学生が「授業の意義が分からない」と言っています。

木野先生 各学部や学科の教学目標や育成する学生像に沿った授業 の配置、丁寧な履修指導が必要だということでしょうね。

皆さん、多くの貴重な意見をありがとう。全体を通してみると、「学 生の主体的な学びを促す授業とは?」というテーマにつながってい くように感じました。

これからも、一緒に取り組んでいきましょう。





上島 有美子さん 木田 一広さん 産業社会学部 3回生



川口 孝太郎さん 文学部 4回生



平野 優貴さん 政策科学部 2回生



面田 知明さん 情報理工学部 4回生



高畠 朋美さん 政策科学部 2回生

学生が望む授業にどう応えるか

今回、学生FDスタッフが選んだ授業は、学生たちにとって「おもしろい授業」だったという点で共通しています。「おもしろい」とは言うまでもなく「interesting」という意味であり、学生の興味・関心を引き、学習意欲を喚起するような授業だという点でも一致しています。多様な学生を擁する本学では学生の興味・関心も将来の抱負も他大学以上に多彩ですから、各授業に初めから強い関心を持って受講する学生は少数でしょう。したがってより多くの学生に「おもしろい」と思わせるためには、授業の内容や進め方から、授業の方法や教材など、何らかの工夫が必要です。しかし、どの授業にも効く万能薬のようなものはありません。ではどうすればよいのでしょうか?

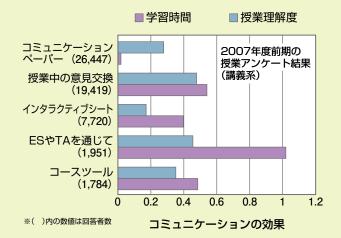
授業を良くするヒント集のようなものを参考にするのもよいと思いますが、一番役に立つのは授業を受けている学生の声だと思います。自分では気付かないことを学生の声から知ることにより、その授業に最も有効な方法が何かを考えることができます。最近の授業アンケートでは、この受講生とのコミュニケーションを重視し、学生の声の集め方や教員の対応度についても聞いていますが、「意見を聞かれていない」という学生はまだ36%もいます。

ところで、そのアンケート結果からは、学生とのコミュニケーションが学生の声を聞くだけではなく、授業の効果をも高めていることがわかりました。右図は学生の声の集め方による学習時間と授業理解度のコミュニケーション効果をグラフにしたものです。横軸の数値は「意見を聞かれていない」と答えた学生の5段階評価平均値との差を示しています。



大学教育開発・支援センター 木野 茂 教授

まさに、このコミュニケーションこそが学生たちの言う「おもしろい授業」への道ではないでしょうか。コミュニケーションが単に学生から話を聞くだけでないことは、学生 FD スタッフたちの授業紹介を読んでいただければわかっていただけると思います。



編集後記

学生FDスタッフ2年間の活動成果として、本冊子を発行することができ、本当に嬉しく思っています。本学では、学生相互の学び合いであるピア・エデュケーションを推進していますが、まさにこの2年間で皆の成長を実感することができました。これからも学生FDスタッフの主体的な活動を支援していく所存ですが、今年度で卒業する学生については、本学での経験を糧に社会で活躍してもらいたいと思います。

最後になりましたが、本冊子の作成に関わり、取材にご協力いただいた 先生方をはじめとして、冊子作成にご協力いただいた皆様に御礼を申し上 げます。

教育開発支援課 金剛 理恵

2007年度 学生FDスタッフ

法学部 4回生 上島有美子 大西 真央 法学部 3回生 面田 知明 情報理工学部 4回生 川口孝太郎 文学部 4回牛 木田 一広 産業社会学部 3回生 経済学部 2回生 新庄 由佳 朋美 高畠 政策科学部 2回生 紘平 経営学部 3回生 乃村 平野 政策科学部 2回生 優貴 ※50音順

立命館大学 大学教育開発・支援センター

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

TEL.075-465-8304(内線 511-7145) FAX.075-465-8318(内線 511-7149) e-mail:fd71cer@st.ritsumei.ac.jp http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/cer/